

つるぎ町一字の植物

植物相班 (徳島県植物研究会)

木下 覺^{*1} 谷川 光秋^{*2} 片山 泰雄^{*3} 松枝 悦子^{*4} 植北ちず子^{*5} 小川 誠^{*6}
 茨木 靖^{*6} 成田 愛治^{*7} 小松 研一^{*8} 原田 悦子^{*9}

要旨：本地域には久藪の天日神社，大宗の聖午王神社などのように多様な植物が生育し，生態系の豊かな社叢が多い。これらの社叢群はこの地域の推移帯の植生を代表する貴重なものであり，巨樹・巨木を育んできた基盤にもなっている。また，四方に連なる山々には多くの希少植物が生育している。特に黒笠山の断崖地は過去に調査報告がなく，今回，ギンロバイ，ミヤマカラマツなど，県下初記録の種や徳島県植物誌の未記載種など極めて希少な植物を多数確認した。その他，日本海側に分布域をもつオオユリワサビ，津志嶽のミヤマベニシダなど，各所で多くの希少植物を見出すことができた。しかし，全域に渡ってニホンジカの食害が拡大しており，早急な対策が必要である。

キーワード：巨樹・巨木，溪流沿い植物，推移帯，冷温帯植物区，希少植物

1. はじめに

本地域は巨樹・巨木が多く生育していて，平成22(2010)年5月には「第23回巨木を語ろう全国フォーラム徳島つるぎ町大会」が開催され，全国的に注目されている。したがって，巨樹・巨木については，既に調査・報告されているものが多いので，重複を避ける意味で割愛した。本地域の林野の大部分は人工林が占めているが中間温帯植物区の社寺林や冷温帯植物区の標高の高い山地には自然植生や自然性の高い二次林が残っている。また，険しい断崖地や岩場は未調査地域があり，多くの希少植物が生育しているなど，極めて多様性に富んだ豊かな自然が残る地域である。今回の調査では，自然の豊かな本地域の植物相を明らかにするため，より自然植生の豊かな場所を選んで，そこに生育している植物を調査した。調査箇所は広範囲に渡ったが，紙面の都合で特に重要で特徴的な場所のみ報告する。

2. 自然環境

旧一字村は剣山国定公園に属する山岳地帯で，西日本第二の高峰である剣山の北側に位置し，剣山山系の高い山々に囲まれた面積97.41km²の地域である。その主要な山々は，剣山の北側に丸笹山(1711.6m)，赤帽子山(1611.4m)，八面山(1312.3m)，西側には黒笠山(1703m)，矢筈山(1848.5m)，石堂山(1636m)など海拔1000mを超える山峰が連なり，さらに黒笠山の東北寄りには津志嶽(1493.5m)を擁するなど，典型的な山岳地帯である。

剣山山系の高山を源とする多くの支川は最終的には中央部を北流する貞光川に注いでいる。

地質は丸笹山，塔の丸など剣山地は秩父帯に属し，砂岩，泥岩，チャート，石灰岩のような堆積岩と海底火山の噴出による玄武岩質溶岩，少量の斑れい岩の岩脈が分布している(岩崎1990)。また，黒笠山，津志嶽，石堂山，矢筈山，八面山などの四国山地に属する地域は三波川帯に属し，中生代のジュラ紀に

*1 鳴門市北灘町粟田字西傍示139 *2 鳴門市大津町木津野字北川縁32-1 *3 名西郡神山町神領字川北 *4 徳島市北沖洲1-6-6
 *5 那賀町西納 *6 徳島県立博物館 *7 海陽町大里松原32-126 *8 徳島市新浜町4-2-25 *9 徳島市川内町上別宮北49-2

海底に堆積した泥岩、砂岩、チャート、同時代に海底に噴出した玄武岩質溶岩が白亜紀に変成作用を受けてできた変成岩（結晶片岩）から成っている（岩崎1990）。

地形は最も低い場所は貞光川河畔の土釜周辺の標高約200mである。全地域にわたって平坦地はほとんど無く、貞光川とその支川の片川、剪宇谷川などに沿った段丘や陽当たりの良い緩傾斜地に集落があり、耕作地が開かれている。周囲は剣山地や四国山地の急峻な山々が聳え、最も高いところは矢筈山山頂の1848.5mである。黒笠山、津志嶽、矢筈山などでは、浸食や崩壊によってできた断崖地が至る所に見られ、所によっては岩錐、岩棚、崩壊地などの地形を伴っている。そこはまた、支川や本流の源流域でもある。滲出する水は枯れることなく岩肌を伝い、幾筋もの細流は合流しながら清冽な沢の流れとなり、やがて溪谷の深い谷間に流れ込んでいる。

気候は夏季は冷涼で快適な気候であるが、冬季は寒さが厳しく積雪の多い日本海側気候（山岳気候）

に属している。メッシュ気候値でみると年平均気温は13.4℃、年降水量は1894mmである（徳島地方気象台1991）。

3. 垂直分布と植生の概要

徳島県における植生を垂直分布帯で区分すると、低山の海拔5m～600mを暖温帯植物区（常緑広葉樹林帯）、600m～1000m近くまでは暖温帯から冷温帯へ移行する推移帯にあたる中間温帯植物区、1000m～1700m付近までを冷温帯植物区、1700m以上を針葉樹林帯（亜高山帯、亜寒帯）としている（阿部1990）。この内、本県のシコクシラベ（シラベ）が分布している1700m以上の針葉樹林帯は、亜寒帯ではなく、冷温帯上部にあたる寒温帯であるとする見解がある（村田2005）。

本地域の植生を概観すると、貞光川を始め、その支川流域の平坦地や山麓の緩傾斜地の多くは集落や耕作地として開拓され、そこを拠点にスギ、ヒノキが植林され、標高1000mを超える高所にまで人工林

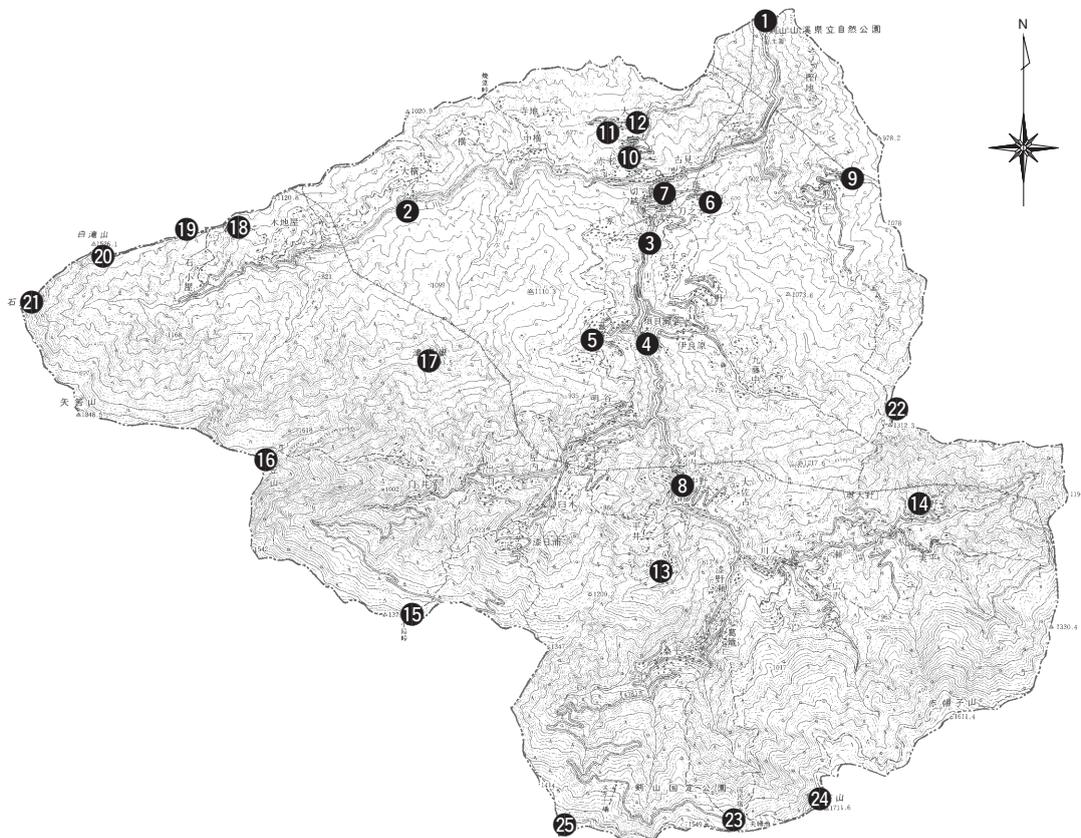


図1 調査場所

が広がっている。さらに近年は、過疎化や高齢化によって標高の高い山間地の多くの耕作地は放棄されたり、スギ・ヒノキの植林地となり、森林の占める割合は全体の91.7%に及んでいる（農山村地域調査2005）。そのうち、集落に近い低山や山麓では、自然植生やそれに近い樹林は、植林に適さない谷筋や岩場のほか、保安林や水源涵養林、社寺林などとして残っているに過ぎない。しかし、矢筈山、黒笠山、津志嶽などの標高の高い山頂付近や稜線部などには、ブナ、トチノキ、ミズナラなどの巨木が林冠を形成していて、自然林や自然性の高い二次林を見ることができる。

4. 調査結果

今回の調査では、本地域の垂直分布上の代表的な植生や地形・地質、社寺林などから見て特徴的な場所を重点的に調査した。その調査場所を示したのが図1である。高い山については登山口から山頂までに出現する自然性の高い植生を複数箇所調査した。それらの調査結果から特色あるものを紹介すると次のとおりである。

1) 暖温帯植物区（常緑広葉樹林）・中間温帯区（推移帯）

(1) 溪流沿い植物及び河畔の植物

この区域は人間活動の最も活発な区域であるため、集落や耕作地が多い上に、森林の大部分は人工林になっていて、常緑広葉樹林の特徴を示す林分は極めて少ない。しかし、本地域の最も低地にあたる貞光川の土釜付近をはじめ、上流域の多くの支川の河畔や溪畔、沢沿いの岩場などではトサチャルメルソウ、オオタチツボスミレ、ナツエビネなど多くの希少植物を確認することができた。また、溪畔林には希少植物のケグワの生育を確認した。

この区域での調査地と調査結果は次のとおりである。

①土釜（土釜の直上流）「調査地No.①」

キシツツジ、ヤシャゼンマイ、イブキシダ、イワカンスゲ、ナルコスゲ、クサマオ、タチシノブ、ドクダミ、アキノタムラソウ、タチツボスミレ、ホラシンプ、アシボソ、マルバウツギ、ヒメワラビ、ホソバコングク、ヨモギ、ツユクサ、アカメガシワ、シロバナショウジョウバカマ、シラネワラビ、ミヤマタゴボウ、ヒサカキ、ヤマフジ、ノブドウ、ヒエガエ

リ、イタドリ、ノイバラ、ウツギ、エゴノキ、ネズミモチ、テイカカズラ、サルトリイバラ、イヌビワ、ススキ、ガマズミ、ノリウツギ、アケビ、フモトシダ、ホシダ、イロハモミジ、クズ、サンカクヅル、ヨウシュヤマゴボウ、ケヤキ、ツルウメモドキ、セキショウ、アワモリショウマ、コオニユリ、アオツツラフジ、キカラスウリ、アオキ、キンミズヒキ、コナスビ、ハハコグサ、スギ（幼木）、イボタノキ、リョウメンシダ、ホドイモ、オオバチドメ、マツカゼソウ、ミヤマミズ、アカネ、ナキリスゲ、チヂミザサ、ヒメヒオウギズイセン、ユキノシタ、ヤブニッケイ、ウラボシノコギリシダ、トウバナ、コスミレ、フユイチゴ、シンミズヒキ、オトギリソウ。

②大横付近河畔の調査「調査地No.②」

溪畔およびその後背の林内の植物を調査した。河床は結晶片岩で川岸には露出した岩盤が張り出している。その岩場および河畔の後背樹林内などでトサチャルメルソウ、ナツエビネ、セトエゴマ、ユキモチソウなどの希少種を確認した。確認種は次のとおりである。

ナルコスゲ、ゼンマイ、イワカンスゲ、ススキ、シラネワラビ、アオミズ、アシボソ、クマノミズキ、シコクチャルメルソウ、コアカツ、チヂミザサ、ゲジゲジシダ、ヤマトキホコリ、アワモリショウマ、ホソバコングク、ミズタビラコ、ハシカグサ、ツボスミレ、ネコヤナギ、アケボノソウ、ウツギ、イボタノキ、ヤマノイモ、ヤマヤブソテツ、カンスゲ、トウバナ、ミズ、イワトラノオ、マツカゼソウ、フユイチゴ、ヤマハリソウ、サルナシ、クサイチゴ、コメナモミ、オニグルミ、イワガネソウ、ヤマアイ、パイカアマチャ、ヌリワラビ、ミツマタ、ミヤマシケシダ、ヤマミズ、カテンソウ、ハナタデ、ムカゴイラクサ、ミズタマソウ、ユキモチソウ、シケチシダ、イワボタン、ヤマミズ、イノデモドキ、イヌワラビ、ギンバイソウ、アカネ、ウワバミソウ、イノデ、ヒメクロモジ、ミヤマフユイチゴ、ジュウモンジシダ、ヤマアジサイ、ハリガネワラビ、オオバナハチジョウシダ、キヨスミヒメワラビ、ヤワラシダ、マムシグサ、キヨタキシダ、ミヤマカンスゲ、ヒメカンスゲ、クリ、ウスバヤブマメ、ミズヒキ、ドクダミ、ゲンノショウコ、キンミズヒキ、ヤワラシダ、オオカモメヅル、フジカンゾウ、オオハナワラビ、コカンスゲ、シンミズヒキ、ミゾシダ、ホドイモ、ケクロモジ、カラクサイヌワラビ、キカラスウリ、ナキリスゲ、シコクアザミ、ナツエビネ。

(2) 道路のり面の植物

本地域は大部分が険しい山地であるため、谷沿いの崖を切り開いて道路が造られ、そのり面は垂直に削られた急傾斜の崖が多い。壁面は粗く、滲出水や川沿いの多湿な環境はスゲ属、シダ類などの生育に適した場所となっている。ここでは崖の上部にコ

バノミツバツツジ、ネジキなど山地の稜線などに見られる植物が生育し、下部はコケ類やイワカンスゲ、カンスゲなどの群落が壁面を被っている。また、希少種のヒメウラジロ、ヒナランなどが見られるなど、岩場に特有の生態系が成立している。その一部の例を記すと次のようであった。

①子安道路のり面の植物「調査地No.③」

イワカンスゲ（優占）、カンスゲ、ヤマヤブソテツ、ケシロヨメナ、コアカソ、フキ、タチシノブ、マルバウツギ、ゼンマイ、ナガバモミジイチゴ、イヌガラシ、イノデ、シシガシラ、イタドリ、ドクダミ、ニガナ、キハダ、ホラシノブ、ハハコグサ、ミゾシダ、キランソウ、ヤマドリソウ、ヤブコウジ、フユイチゴ、ヒサカキ、マムシグサ、オオアレチノギク、スイカズラ、ウツギ、ウラジロ、アラカシ、ネジキ、ヤマツツジ、オオバノイノモトソウ、キブシ、オオイタチシダ、ヤブイバラ、コバノミツバツツジ、スギナ、アオキ、オニタビラコ、ウバユリ、エゴノキ、チドリノキ、カタバミ、ウマゴヤシ、コハコベ、ベニシダ、テイカカズラ、ヒメウツギ、イロハカエデ、クサイチゴ、クマワラビ、ヨシノアザミ、コモチマンネングサ、ヒメウラジロ、キツタ、ヒメウズ、ヤマコウバシ、ヤブツバキ、フモトシダ、ナルコユリ、アワブキ、ゲジゲジシダ、イヌシダ、オオバナニガナ、ナガバタチツボスミレ、オニカナワラビ、ヒメウズ、クサマオ、アケビ。

②久藪（草木谷）「調査地No.④」

イワカンスゲ（優占）、ヒガンバナ、ミゾシダ、スイカズラ、キランソウ、シマカンギク、ヤマドリソウ、オオバナニガナ、ヨモギ、イノデ、ヤマイタチシダ、イタドリ、ゼンマイ、ケシロヨメナ、ナガバモミジイチゴ、イヌガヤ、イヌシダ、クサイチゴ、ヒメウズ、シコクチャルメルソウ、セントウソウ、ユキモチソウ、ダイコンソウ、フユイチゴ、アオスゲ、アケビ、アカネ、ノリウツギ、ヤブヘビイチゴ、トゲヤマドリソウ、ヒメクラマゴケ、イロハカエデ、ヘビイチゴ、ヤマムグラ、ゲジゲジシダ、クサマオ、コアカソ、ミツデウラボシ、ヤマジノホトトギス、ハナイカダ、ツルカノコソウ、タチツボスミレ、テイカカズラ、コタチツボスミレ、コバノヒノキシダ。

(3) 中間温帯植物区（推移帯）の豊かな社叢群と巨樹・巨木

本地域は古い時代から鎮守の森やご神木として、地域の人々に崇められ、保護されてきた巨樹や社叢が今日まで数多く残されている。既に関係当局及び有志等による長年の調査により、巨樹・巨木の多くが文化財（天然記念物）や保存木などに指定され、その豊富さは他地域に比べて際立っている。太い幹や優れた樹相などが醸し出す風格は、訪れる人々を魅了し、個々の巨樹の価値とともに、その取り組み

は全国的に高く評価されている。

今回の調査では、巨樹・巨木を育ててきた基盤ともいえる社叢群に視点をあてて調査した。その結果、一宇字蔭の白山神社、久藪の天日神社、大宗の聖ひじりご王神社などの社叢は、巨樹・巨木が多く生育しているのみならず、樹林の構成種が多様で、推移帯の特徴をもつ豊かな生態系が維持され、極めて価値が高い樹林であることが確認できた。

つるぎ町で公開されている巨樹・巨木については紙面の都合で割愛し、社叢の調査結果の一部を紹介する。

①久藪天日神社「調査地No.⑤」（樹木名のあと の数字は幹周囲、単位はcm、以下同様）

植栽されたスギが大きく生長し、自然木のケヤキ、ウラジロガシ、シラカシなどの巨樹・巨木とともに調和した樹林を形成している。林床には希少植物を含め、様々な植物が生育している良好な樹林である。

高木層：スギ（407, 309, 317, 318, 510, 464）、ケヤキ（503, 373, 395）、ウラジロガシ（452, シラカシとして町指定天然記念物に表示）、ウラジロガシ（420, 306, 357）、シラカシ（392, 173）、アズサ（267）、ケヤキ（503, 373, 395）、カゴノキ（226）、ユズリハ（106）、オオモミジ（174）、カゴノキ（206）、エドヒガン（444, 町指定天然記念物）。

草本層：ナンゴクアオキ、ナツエビネ、サイコクイノデ、シュロ、ヤブムラサキ、クサギ、ピナンカズラ、ツルリンドウ、ヤマハゼ、ナガバハエドクソウ、テイカカズラ、ヘクソカズラ、イワガラミ、チヂミザサ、ツタ、キツタ、エノキ、ツルマサキ、ベニシダ、チャノキ、エゴノキ、ツルウメモドキ、ナンテン、アジサイ（栽培）、ハリガネワラビ、ゼンマイ、ヤマウルシ、コパンノキ、ヒロハイヌワラビ、リョウブ、ケクロモジ、ノブドウ、ヤブニッケイ、ウバユリ、ヒカゲイノコヅチ、サイハイラン、ナンゴクウラシマソウ、ヤマグラ、ユキモチソウ、オオゲジゲジシダ、マムシグサ、アオテンナンショウ、ヒゴクサ、ヒメシラスゲ、イヌシダ、オオナルコユリ、ホンシャクナゲ、サカキ、ウリハダカエデ、ハグロソウ、コシアブラ、タラノキ、イロハモミジ、オトコエシ、カラクサイヌワラビ、ヤブコウジ、ムラサキニガナ、アオイスマレ、スイカズラ、カナクギノキ、ヤブラン、ケヤキ、クサイチゴ、ヤワラシダ、サルナシ、イワヘゴ、フモトシダ、ヒヨドリバナ、テリハヤブソテツ、イワヒメワラビ、ナガバモミジイチゴ、アサガラ、シオデ。

②蔭の白山神社「調査地No.⑥」

当社叢内にあるモミノキの巨樹は県指定天然記念物であるが、その他の樹種では常緑広葉樹のシラカシの巨木が林冠の多くを占め、落葉広葉樹のトチノ

キなども混在して自然植生が維持された良好な樹林である。樹幹を計測した高木層のみを記すと次のとおりである。

モミノキ (県指定：636), シラカシ (595, 290, 317, 365), スギ (505), トチノキ (278)。

③太刀之本 三所神社「調査地No.⑦」

集落にごく近いいため、人為的な干渉がより強く影響している小規模な樹林で、ムクノキの巨木が多いのが特徴である。

スギ (378), ムクノキ (588, 340, 516), ユズリハ (160), フウラン, イワヘゴ, ハカタシダ, フモトシダ, イノデ, カテンソウ, クサイチゴ, ヤマアイ, チヂミザサ, クサマオ, ヤマヤブソテツ, ヤブツバキ, マルミノヤマゴボウ, ヒノキ, イロハモミジ, シラカシ。

④河内下宮神社「調査地No.⑧」

スギ, ヒノキが植栽され, 社叢内には注目すべき巨樹・巨木は見当たらなかったが, 樹上にはカヤランが着生し, 林床にはムヨウランを確認した。

ヒメシャラ (植栽：137), スギ (431), ヒノキ (292), ツクバネガシ, シノブ, イワヤナギシダ, ムヨウラン, カヤラン。

⑤剪宇の白山神社 (剪宇峠への途中：Alt.703m付近)「調査地No.⑨」

社叢は豊かでトチノキ, ケヤキ, エゾエノキなどの巨木が生育し, 自然性の高い良好な樹林が維持されている。

ケヤキ (616：樹幹側面が腐朽, 461, 274, 382, 281, 277), トチノキ (434：地上80cmで計測, 295, 459, 451, 368), スギ (272, 251, 249, 242), エゾエノキ (341), カヤ (186), アサダ (296), イタヤカエデ (234), シラカシ。

⑥大宗 新田神社：Alt.370m「調査地No.⑩」

ケヤキ (564), エノキ (248), カゴノキ (162：地上90cmで計測), シラカシ (298), シュロ, アカメガシワ, ナンゴクアオキ, ツルドクダミ, ホソバシオデ, シュウメイギク。

⑦大宗 石上神社：Alt.490m「調査地No.⑪」

カヤ (280, 208), ムクノキ (438), ケツルマサキ, カゴノキ。

⑧大宗 聖午王神社 (一宇村史では西森神社)：Alt.750m「調査地No.⑫」

トチノキの巨木が優占し, エゾエノキ, ケケンボナシ, シラカシなどの巨木が混生し, 推移帯の自然植生の特徴を維持している良好な樹林である。周辺にはタカネハンショウヅル, ウ斯巴ヒョウタンボク, イワオモダカなどの希少植物も生育していた。

トチノキ (優占：342, 481, 515), エゾエノキ (444), ケケンボナシ (372), シラカシ (365), カヤ (199), イワオモダカ, アオネカズラ, サルスベリ (植栽), サイハイラン, オオキツネノカミソリ (群生), ユズリハ, イヌガヤ, ツガ, タカネハンショウヅル, ウ斯巴ヒョウタンボク。

⑨天磐戸^{あまのいわと}付近「調査地No.⑬」

天の岩戸のある稜線部の岩場や痩せ地には, ツガが優占し, 自然植生のヒノキ, アカマツなどの稜線部に出現する常緑針葉樹が生育している。それに隣接する下部では堆積土壌層が厚くなり, ウラジロガシなどの常緑広葉樹, コナラ, コハウチワカエデ, ウラジロノキなどの落葉樹が混生した中間温帯林の特徴をもつ樹林に移行する。ここでの構成種は次のようであった。

稜線部：高木層：ツガ (優占：457), コハウチワカエデ (202), ヒノキ (269, 229, 193), イヌシデ, アカマツ, ウラジロガシ。／天の岩戸の岩場付近：高木層：ツガ (優占), ヒノキ, アカマツ, スギ, コナラ, ウラジロノキ。／亜高木層：ネジキ, アオハダ, スギ, イヌシデ。／低木層：ツガ, シラキ, ソヨゴ, コハウチワカエデ, ヤブツバキ, マダケ, イタヤカエデ, サルトリイバラ, コバノミツバツツジ。／草本層：ヒメカンスゲ, イロハモミジ, ウラジロノキ, ヤマウルシ, ツルリンドウ, マルバマンネングサ。

⑩天磐戸：Alt.575mから下った集落跡地の樹林 (墓地あり)

ウラジロガシ (512：地上1m位置で計測, 343, 312), カゴノキ (171：幹の半分腐朽), ユズリハ (180), ヒノキ (254), ムクノキ (347, 350), シラカシ (根の食害：257), イヌシデ (242), ウラジロガシ (259：地上215cmで計測：他樹と接合のため)

⑪杣野の王太子神社「調査地No.⑭」

植栽木のスギの巨樹が多く生育しているほか, 自然木のケヤキも生育している立派な社叢である。町指定天然記念物のエゾエノキは枯死していたのが残念であった。また, 他地域では社殿の管理のためと称して, 通風をよくする目的で, 樹林内の低木層を伐採しているのを見かけることがある。しかし, そのことによって樹林内の環境が変化し, 希少種の生育に悪影響を及ぼすので, 生態系豊かな社叢の保護という点からは好ましいことではない。この樹林も理由は分からないが, 低木が多く伐採されていた。ここには次の植物が見られた。

スギ (優占：577, 449, 413, 382, 332, 327, 322, 321, 258, 321：地上123cm), カヤ (195, 182, 181, 175), ケヤキ (420, 349, 540：地上60cm), イチイ (163：地上90cm),

イロハモミジ (218, 156), フジ (65), ヤブツバキ (91: 地上110cm, 120: 地上120cm), エゾエノキ (枯死), サトザクラ (植栽), サカキ, ノブドウ, ヤマキツネノボタン, オオバコ, ノコンギク, ホソバコンギク, ネズミガヤ, ヨモギ, イタドリ, クサコアカソ, サンカクヅル, イヌワラビ, コクサギ, ヤマジノホトトギス, エノキ, ヤマアイ, シロダモ, ユズリハ, ヤブミョウガ, ヤマヤブソテツ, サイコクイノデ, チヂミザサ, テリハヤブソテツ, キツタ, ドクダミ, ヤマジオウ, ミズヒキ, ゼンマイ, イヌガヤ, シノブ (ケヤキに着生), ヤブハギ, ウシタキソウ, ゲジゲジシダ, オオゲジゲジシダ, ケシロヨメナ, コタチツボスミレ, ツルリンドウ, エイザンスミレ, ヤマルリソウ, カンスゲ, クマノミズキ, ゼンマイ, ミツマタ, ヒメワラビ, ヤマグワ。

⑫「悲恋駒止めの桜」と小島峠の「淡墨桜」
調査地No.15

かつて、堂平の阿弥陀堂に県指定天然記念物「悲恋駒止めの桜」があったが、昭和20 (1945) 年8月の台風により倒伏枯死した。サクラは直径3mものエドヒガンの巨樹で、源平合戦にまつわる伝説のあるものであった (岡田: 1994)。平成7年明谷小学校長であった木下はこのような由緒あるサクラをなんとか復元したいと考え、岐阜県根尾村の国指定天然記念物の淡墨桜の実生苗を現地まで行って持ち帰った。しかし、阿弥陀堂やその周辺には植栽場所が無く、地域の有志と検討した結果、当時の児童・保護者・教職員・地域の有志とともに平成9 (1997) 年3月に明谷小学校の休校記念として小島峠に植栽した。他の1本は西福寺の庭にも植えてもらった。小島峠のものは樹齢9年目にして初めて淡墨色の花が開いた。最近、周辺の工事などで枝や根を切られて傷ついているが、小島峠のシンボルとして巨樹に育つことを願っている。

2) 冷温帯植物区

今回の調査で最も注目した区域で、山は深く、そそり立つ断崖に阻まれ、未踏査の場所が多く残されていた。調査には危険を伴うが、この上なく魅力のある地域でもあった。実際、岩壁の調査は身の危険を感じることも少なくなかったが、ギンロバイ, ミヤマカラマツ, ユキワリソウ, タマガワホトトギス, ダイモンジソウなど徳島県植物誌 (阿部1990) に未記録の植物や過去には本地域に記録のなかった多くの希少な植物を確認した。

(1) 黒笠山の植物「調査地No.16」

黒笠山は鋭く尖った岩峰で知られ、山頂部やその周辺部は岩盤が露出し、険しい断崖地や岩場が多い。登山口から黒笠神社までは、かつては集落があり多くの農耕地があったが、現在では数軒の人家が残るのみで、かつての耕地はスギ, ヒノキの植林になっている。スギは植栽後50余年 (幹周295cm) を経たと推定される太いものも見かけられた。黒笠神社の鳥居付近まではスギの植林が続き、鳥居をくぐるとようやくウラジログシヤケヤキ, イヌブナなどが生育する自然植生が出現した。林床はニホンジカの食害により多くの草本類は消滅していて、ツルシキミや矮化したミヤマクマザサが目立ったが、県内では希産種のカシワバハグマ, クサヤツデ, ミヤマカタバミなどがまだ残存していた。そこから標高を上げると、谷沿いにはコナラやシデ類などの二次林が多く出現した。さらに登って、標高1100m付近では冷温帯域の特徴であるブナ, ミズナラ, イタヤカエデなどの落葉広葉樹が林冠を形成する樹林になった。沢沿いには随所にトチノキの巨樹やカントウマユミの巨木が見られた。また、希少植物のメグスリノキ, ヒトツバエゾスミレ, コクワガタなども確認できた。黒笠神社の周辺はかつては草本類が繁茂し、それらに混じって四国では極めて希少なクルマユリが生育していたが、ニホンジカの食害や園芸採取などにより全く確認できず、テンニンソウなどの限られた種類のみが生育していた。神社の境内に続く隣接地はヒノキの植林地であるが、登るにつれてヒコサンヒメシャラが混生する樹林となり、続いてカントウマユミが優占する群落が見られた。さらに、山頂に近づくにつれて冷温帯落葉広葉樹林帯の特徴が一層顕著になりミズナラやブナが優占する樹林が出現した。それらは太い樹木が多く、自然植生が維持されている良好な樹林であった。さらに標高が高くなると剣山山系の高山の稜線部などに分布が限られているナンゴクミネカエデ, イシヅチミズキ, 崖地や岩場に生育するヤマグルマなどの植物を確認した。頂上近くの岩場では、コヨウラクツツジ, ホツツジ, ツルギミツバツツジ, コメツツジなどの植物が生育し、断崖地の岩肌にはダイモンジソウ, イワキンバイも見られた。ナンゴクミネカエデ, イシヅチミズ

キ、コヨウラクツツジ、ホツツジ、ダイヤモンドソウなどは、いずれも本山からはこれまでに記録されていない植物である。それらの内、イシヅチミズキの幹はほとんどがニホンジカの剥皮被害を受けていた。以下は、それぞれの調査区での確認種を記したものである。

①黒笠神社鳥居付近～黒笠神社：Alt.約950m～1260m

黒笠神社鳥居付近：スギ (303, 298), ツガ (294), イヌブナ (218), ウラジロガシ (222), ヤブハギ, カシワバハグマ (44株), クサヤツデ, ゴヨウマツ (植栽), イチヤクソウ, アカネ, オオカモメヅル, アオテンナンショウ, ヒトリシズカ, ムカゴイラクサ, シキミ, モウソウチク, アケビ, ヤブムラサキ, シラキ, ミツバアケビ, シロモジ, ケヤキ, コバノガマズミ, サルトリイバラ, ツタウルシ, キクバドコロ, マツブサ, サルナシ, ミズ, クモキリソウ, ヘビイチゴ, コナスビ, フウロケマン, クサギ, ハシリドコロ, ケマルバスマイレ, アカメガシワ, タラノキ, サワギク, ウラジロノキ, ツルシキミ, ナワシログミ, ツガ, ツクシシャクナゲ, カヤ, ソヨゴ, アズサ, ミヤマウズラ, ミヤマカタバミ, ミヤマクマザサ, クリ, アセビ, アブラチャン, タンナサワフタギ, アワブキ, ユキモチソウ。

②シデ類が優占する二次林：Alt.1020m

イヌシデ, ウリカエデ, ミズナラ, アオテンナンショウ, フサザクラ, ヒメキンミズヒキ, サルナシ, ミツバカエデ, ミズキ, ナガバモミジイチゴ, コゴメウツギ, ジュウモンジシダ, クルマムグラ, ミヤマハコベ, タニタデ, イタヤカエデ。／ヒトツバエゾスマイレ (Alt.1150m), オニイタヤ (281:地上50cm), コフウロ, コクワガタ, エイザンスミレ。／Alt.1226m:メグスリノキの巨木 (173)。

③カントウマユミ巨木付近：Alt.1190m～1500m

カントウマユミ (162), ナガバイラクサ, ミズ, ハガクレツリフネ, ヤハズアジサイ, イワタケソウ, シコクウツギ, イタヤカエデ (416), コクワガタ, ムカゴイラクサ, リョウメンシダ, コウツギ, オオマルバノテンニンソウ, カンスゲ, ツルキンバイ, バイカツツジ, アワノミツバツツジ, オノエヤナギ, コツクバネウツギ, ヌカボ, シシガシラ, ヤマボウシ, コバノトネリコ, ツルアジサイ, ヤマヤナギ, ヤマカモジグサ, オオイタヤメイゲツ。

④沢沿いの傾斜地1：Alt.1120m付近

高木層：ミズナラ (優占), ホウノキ, エゴノキ, ブナ, ミズキ, ケヤキ, クマシデ, イタヤカエデ, イトマキイタヤ。／亜高木層：ヤマグワ, ハリギリ, サルナシ, ヤマブドウ。／低木層：ノリウツギ, アケビ, キブシ, ウツギ, ミツバウツギ, ホウノキ, サルナシ, サワシバ, シロモジ, コゴメウツギ, コハウチワカエデ, チドリノキ, マタタビ, ヒメコウゾ, アサガラ。／草本層：コフウロ, クルマムグラ, ヤ

マルリソウ, テバコモミジガサ, カジカエデ, オオヤマハコベ, オヤマボクチ, ケシロヨメナ, コゴメウツギ, クルマムグラ, ナガバモミジイチゴ, ミゾシダ, ヒトツバエゾスマイレ, メギ, エイザンスミレ, イヌワラビ, マムシグサ, オオマルバノテンニンソウ, コチャルメルソウ, ミズヒキ, ギンバイソウ, モミジカラスウリ, ツルニンジン, アカネ, ムカゴイラクサ, ジュウモンジシダ, ミヤマタニソバ, ダイコンソウ, イタドリ, ウスゲタマブキ, ミツバテンナンショウ, ツルカノコソウ, ヤマトウバナ, オオバショウマ。

⑤沢沿いの傾斜地2：Alt.1260m付近

高木層：トチノキ (優占:312, 395, 461, 548 (地上1m), イタヤカエデ (412), アサガラ (303), ヤマブドウ, ミズキ, アズサ, ケヤキ, オオイタヤメイゲツ, ハリギリ。／亜高木層：オニイタヤ (262), ツガ (308), チドリノキ, ヒナウチワカエデ, ヤマグワ, カジカエデ, ツルマサキ, ツルアジサイ。／低木層：チドリノキ, ウツギ, クマシデ, ヤマグワ, トチノキ, メギ, シロモジ。／草本層：ムカゴイラクサ, ジュウモンジシダ, ウリノキ, クルマムグラ, ミヤマタニソバ, イワタケソウ, シコクチャルメルソウ, テバコモミジガサ, イヌワラビ, サウルリソウ, テンニンソウ, ヤマトキソウ, ツルカノコソウ, キヨタキシダ, エイザンスミレ, アマチャヅル, シコクブシ, イトスゲ, ナガバイラクサ, ミツマタ, オオバショウマ, シコクスミレ, オヤマボクチ, カノツメソウ, ヤマルリソウ, タニタデ, ウリノキ。

⑥黒笠神社境内～黒笠山山頂

イタヤカエデ, ヒノキ, ウツギ, テンニンソウ, イグサ, ツルキンバイ, ヌカボ, キンミズヒキ, ミヤマタニソバ, ヤマカモジグサ, オオカメノキ, ヒメシャラ, カントウマユミ, ウバユリ, オオバコ, ツヤナシイノデ, (イノシシ掘り跡)／Alt.1540m:ヒコサンヒメシャラ, イタヤカエデ, アズサ, ジュウモンジシダ, ブナ, テンニンソウ, カントウマユミ (群落), ミヤマノキシノブ, ミヤマザクラ, モミノキ, ヒナノウスツボ, ミヤマムグラ。／Alt.1590m:トクシマミツバツツジ, シナノキ, コバノトネリコ, ナナカマド, シラネワラビ, コミネカエデ (Alt.1620m), オオイタヤメイゲツ。

⑦ブナ林：Alt.1620m

高木層：ブナ (優占), ウラジロモミ, ミヤマザクラ, オオイタヤメイゲツ。／亜高木層：ヒコサンヒメシャラ, コミネカエデ, ブナ, コハウチワカエデ, ナナカマド, イシヅチミズキ (剥皮)。／低木層：イワガラミ, シロモジ, シラキ, クロヅル, ウリハダカエデ, オオカメノキ, ブナ, イタヤカエデ, シラキ。／草本層：ミヤマクマザサ, シコクヒロハテンナンショウ。／Alt.1653m:イシヅチミズキ (剥皮), Alt.1660m:リョウブ (剥皮), ナンゴクミネカエデ (Alt.1670m)。

⑧稜線：Alt.1670m付近

ヤマグルマ, ヤマシグレ, リョウブ, ツルギミツバツツジ, ナナカマド, ベニドウダン, ホツツジ, シロドウダン, コヨ

ウラクツツジ、ナンゴクミネカエデ、ウラジロモミ、コバノトネリコ、カニコウモリ、ツリバナ。

⑨山頂の祠のある岩場

ヤマグルマ、ホツツジ、コヨウラクツツジ、ヤマシグレ、ツルデンダ、フクロシダ、イワキンバイ、ダイヤモンドソウ、アサマリンドウ、ヘビノネゴザ、イワデンダ、シモツケソウ、アオハリガネワラビ。／山頂（1703m）：ヒメスゲ、ヒメコマツ（崖の下）、タカネオトギリ、ミヤマクマザサ、クロズル、リョウブ、ヤマシグレ、ツルギミツバツツジ、コバノトネリコ、ナンゴクミネカエデ。

⑩黒笠山の断崖地の植物：Alt.1370m

山頂に近い付近は断崖地や険しい岩場が連なっている。垂直にそそり立つ断崖や岩肌からしみ出す水が滝のようにしたたり落ちる沢の源流部、険しく崩れ易い急斜面など、極めて危険な場所が多いため、これまで調査がほとんどされていない未踏査地であった。徳島県植物誌（阿部1990）には、黒笠山には希少植物のギンロバイが生育するという情報があるが未確認であることが記載されている。調査者の一人である木下は、平成7年に吉野川市在住の川村市郎氏の案内で現地調査を行い、ギンロバイが実際に生育していることを確認した。同時に県内では生育記録の無かったミヤマカラマツや当時は県内には1箇所しか生育記録の無かったユキワリソウなどの希少種が生育していることなども確認した。それらのことにより、一帯の岩壁は容易に人を寄せ付けない険しい立地が幸いして、県内未記録植物や極めて希少な植物が多く残存している重要な場所であることを認識した。しかし、その日は時間不足で十分な調

査が行えず、その後も調査の機会もなく未発表のまま今日に至った。今回の調査の結果、ギンロバイ（県内第3産地）、ミヤマカラマツ（徳島県植物誌未記載種：県内初記録）（図2）、ユキワリソウ（県内数箇所）、コケミズ（徳島県植物誌未記載種：県内数箇所）、タマガワホトトギス、ダイヤモンドソウなど、極めて希少な植物の生育を確認することができた。確認種は次のとおりであった。

A 沢の源流部

沢を登りつめると断崖になり岩肌からしみ出した水が白糸の滝のように流れ落ちている。その断崖地や周辺の岩場にイワタバコ、ウナツキギボウシなどが見られ、それらに混じってミヤマカラマツやユキワリソウなど多くの希少植物が生育していた。確認種は次のものである。

ナンゴククガイソウ、ソバナ、ミヤマカラマツ、イワタバコ、ウナツキギボウシ、シコクウツギ、タマガワホトトギス、ユキワリソウ、ミヤマノダケ、ジユウモンジシダ、タカチホガラシ、オウレンシダ、ウバミソウ、シラネセンキュウ、クサコアカソ、コケミズ、コウヤボウキ、イワキンバイ、ダイヤモンドソウ、ショウジョウスゲ、クマイチゴ、カマツカ、シロドウダン、イワデンダ、ニワトコ、コノリウツギ、コオニユリ、ギンバイソウ、シシガシラ、リョウブ、ミズタマソウ、シロモジ、ヒノキ、ツガ、ホンシャクナゲ、フクオウソウ、クサヤツデ、シシウド、ゴヨウマツ（239：Alt.1270m）。

B 岩壁とその周辺：Alt.1370m

垂直にそそり立つ大岩壁で、岩肌は粗く、所によっては覆い被さるように張り出している。その凹凸の凹みの数箇所にギンロバイ（図3、図4）が生育



図2 ミヤマカラマツ



図3 ギンロバイ



図4 ギンロバイ

していた。以前は岩棚にも小さい個体が生育していたが今回は見当たらなかった。周辺には次の植物が見られた。

ギンロバイ, ミヤマツチトリモチ, タチネズミガヤ, ショウジョウスゲ, ユキワリソウ, ダイモンジソウ, コオニユリ, ミゾホオズキ, ヒノキ, ススキ, ヤマカモジグサ, コノリウツギ, ウワミズザクラ, シナノキ, イワキンバイ, ミヤマカラマツ, ヤマカモジグサ, ヤマイヌワラビ, クサコアカソ, ヤマルリソウ, イタヤカエデ。

(2) 津志嶽「調査地No.17」

津志嶽は黒笠山などとともに旧一字村の代表的な山である。特にシャクナゲの群生地は古くから知られ、貴重な植物群落としてつるぎ町指定天然記念物になっている。本山の植生の概要を述べると、久藪付近の山麓から中腹までは集落跡や放棄耕作地にまで栽植されたスギ植林地が続き、それに続いてスギとアカマツが混生する樹林やアカマツが優占種となる樹林が現れる。さらに標高が高くなり、約1100mを超えると稜線沿いにコナラ、シデ類などが優占する樹林に移行し、続いてミズナラ、イタヤカエデなどが林冠を構成する冷温帯の落葉広葉樹林に変わる。さらに上部の標高1270m付近の稜線沿いには町指定天然記念物のシャクナゲ群落が出現する。その群落の規模は県内屈指であり、その林床にはシノブカグマの群生が見られることも群落の特徴として特記すべきことである。今回の調査ではシャクナゲ園より上部の調査は時間がなくて断念した。本調査区で確認した希少種をあげると、登山ルート途中の石鉄神社の社殿の傍らにキレンゲショウマやオオヤマ

レンゲが見られたがいずれも栽植されたものと思われた。また、津子嶽神社周辺には、小規模ながらミズナラ、ハリギリ、コハウチワカエデなどが生育している自然植生が見られ、さらに標高が高くなると、稜線沿いにシャクナゲが出現するようになった。稜線から下った沢沿いの緩傾斜地ではアズサ、イタヤカエデなどの巨木が林冠を構成する落葉広葉樹林が見られた。この付近では、沢沿いの湿潤な林床にミヤマベニシダが3株だけ生育しているのを確認した。このシダはこれまでに四国では高知県に1箇所、徳島県に3箇所しか確認されていない極めて希少なものであり、本調査区での重要種として特筆すべきものである。以下登山口からシャクナゲ園までで確認した植物の主なものをあげると次のようであった。

① 登山口～民家～スギ植林地～石鉄神社

オオバノハチジョウシダ, ヤマイヌワラビ, ヒロハイヌワラビ, ヤマヒロハイヌワラビ (ヤマイヌワラビ×ヒロハイヌワラビ), トチバニンジン, イワガネゼンマイ, サカゲイノデ, ツヤナシイノデ, イノデモドキ, カタイノデ, サイゴクイノデ, ヒロハヤブソテツ, イワヤナギシダ (葉柄は紫), ミツイシイノデ (カタイノデ×サイゴクイノデ), ヤブハギ, ミズヒキ, ギンバイソウ, ウワバミソウ, モミジカラスウリ, オオマルバノテンニンソウ, トウゲシバ, ゼンマイ, ミズタマソウ, コメナモミ, ヘクソカズラ, カンスゲ, ヤハズアジサイ, ヌスビトハギ, キハダ, ミヤマフユイチゴ, マルバウツギ, フジ, コチャルメルソウ, ミヤマタゴボウ, ヤワラシダ, シラキ, ヤマサギゴケ, ツルニガクサ, キヨタキシダ, ハシカグサ, シオデ, ノブドウ, ケクロモジ, ホドイモ, ミズキ, ダイコンソウ, オオバコ, シロバナショウジョウバカマ, ナガバモミジイチゴ, カナクギノキ, ミツバ, ミヨウガ, ノコンギク, トウバナ, イタドリ, ヒメジソ, アオミズ, キツリフネ, シコクチャルメルソウ, トウグミ (栽培), ヒメシラスゲ, ミゾホオズキ, オトギリソウ, オヘビイチゴ, オオゲジゲシダ, イヌシダ, マツカゼソウ, ツユクサ, リョウブ, ヤマノイモ, チャノキ, アオテンナンショウ, マムシグサ, ミヤマシケシダ, ヤダケ, イヌシデ, イボクサ, ウバユリ, イロハカエデ, ヨモギ, ノササゲ (栽植), イヌツゲ, ヤマダク, チャセンシダ, ヒオウギ, クズ, キバナガクビ, ヒオウギ, マダケ, カキノキ, ススキ, ウツギ, ヌルデ, トクサ, エノキ, ヒメヒオウギズイセン, キランソウ, オオマトヨイグサ, キツネガヤ, ボタンクサギ (栽植), オオヤマレンゲ (栽植), オオナルコユリ, シキミ (栽植), キレンゲショウマ (栽植), カキドオシ, スリワラビ, ミヤマシケシダ, イヌワラビ, ナガバジャノヒゲ, オオバアサガラ, サワギク, ジュウモンジシダ, ウラジロノキ, ミヤマウズラ, イワヒメワラビ, サルトリイバラ, マルミノヤマゴボウ, ミズ

タビラコ、シコクトリアシショウマ（ツルシコクショウマ）。／アカマツ・スギ混生林（Alt.948m）：アカマツ（優占：167, 179, 154）、スギ、コシアブラ、ヤマナラシ。

②アカマツ林：Alt.1025m付近

高木層：アカマツ（優占：135, 193, 127）、コナラ（150）。／亜高木層：リョウブ、イヌシデ、アズサ。／低木層：カマツカ、アセビ、アズサ、アオハダ、リョウブ（剥皮）、コナラ、アセビ、ウラジロノキ。／草本層：シロモジ、シシガシラ、スズタケ（枯死）、イチヤクソウ、ヤマジノホトトギス、イヌツゲ。／稜線付近：カラマツ、リョウブ、スズタケ、シロモジ、サルトリイバラ、コハウチワカエデ、ハネミイヌエンジュ、ウリハダカエデ。／津子嶽神社：ミズナラ（229）、ヤマザクラ（197）、アカマツ（243）、イヌシデ（262）、アズサ、カラマツ、ノリウツギ、ワラビ、タラノキ、シシガシラ、タガネソウ、リョウブ（剥皮）、アズサ、イヌツゲ、ツガ、スギ（剥皮）、アセビ、ソヨゴ、タムシバ、コシアブラ、ナツツバキ（食害）、ナナカマド。

③津子嶽神社付近

コハウチワカエデ（172）、アズサ、ウラジロモミ、クマシデ、ホンシャクナゲ、ミズナラ、ハリギリ（284）スギ、アキノキリンソウ、ミヤマザクラ、ヤマザクラ（197）、イヌシデ（262）、ナナカマド。

④岩場のコナラ林：Alt.1140m付近

高木層：コナラ（優占）、ハリギリ、イヌシデ、アズサ、カラマツ、エゴノキ、クリ。／亜高木層：エゴノキ、ナツツバキ、ウリハダカエデ、ウラジロノキ、ツガ。／低木層：イヌツゲ、シラキ、アワノミツバツツジ、イロハカエデ、コハウチワカエデ、シロモジ、コミネカエデ、フサザクラ、オンツツジ、リョウブ、スギ、アオハダ、コバノトネリコ、コゴメウツギ。

⑤稜線部の樹林：Alt.1190m付近

高木層：ミズキ、アズサ、ハリギリ、ウリハダカエデ。／亜高木層：アズサ、ツルアジサイ。／低木層：カジカエデ、コハウチワカエデ、アサガラ、シコクウツギ、ウリノキ、シロモジ、アサノハカエデ、クマシデ、アオハダ。／草本層：テンニンソウ、ミヤマクマワラビ、ウリノキ、オオマルバノテンニンソウ。

⑥シャクナゲ群落：Alt.1270m付近

シャクナゲ（優占）、リョウブ、ネジキ、ツガ、タムシバ、ヤマツツジ、ミヤマクマザサ、シシガシラ、ナツツバキ、アセビ、アズサ。

⑦沢沿いの樹林

高木層：アズサ（優占：312）、ウリハダカエデ、アサガラ、オオイタヤメイゲツ、アサノハカエデ、オオバアサガラ、イヌザクラ（332）、コハウチワカエデ、ヒコサンヒメシャラ。／亜高木層：ヒメシャラ、オシャグジデンダ、ツルアジサイ。／低木層：タンナサワフタギ、ヤハズアジサイ。／草本層：テツカエデ、カジカエデ、ミヤマクマワラビ、コチャ

ルメルソウ、ミヤマベニシダ（3株）、トチバニンジン、サイコクイボタ、マルバフユイチゴ、オクマワラビ、リョウメンシダ。

⑧シャクナゲ園（自然林）：Alt.1275m付近

ホンシャクナゲ（優占）、アズサ、コノリウツギ、リョウブ、コハウチワカエデ、テツカエデ、ツガ、シノブカグマ（群落）、ミヤマクロモジ、シロモジ、ナナカマド、イヌザクラ、アオハダ、ヒノキ、シロモジ、ヤマグルマ、クロヅル。

(3)白滝山・石堂山

石堂神社の境内には、ヒメジョオン、イヌナギナタガヤなどの外来植物が生育し、周辺部には植栽されたスギ、ヒノキの巨木がわずかに見られる程度であった。しかし、旧半田町との境の稜線部にある石堂山の登山道沿いには自然性の高い二次林が見られ、林床にはシモツケソウ、カノツメソウ、クロフネサイシンなどの希少植物なども確認できた。標高が高くなるにつれてミズナラ、ブナなどが出現し、旧半田町の白滝山から石堂山への稜線はミヤマクマザサ群落となり、登山道沿いにはシコクフウロ、タカネコウボウなどが生育していた。稜線沿いにはコバノミツバツツジ、アワノミツバツツジなどの低木類も多く、林床にはミヤマツチトリモチ、草原にはシコクノガリヤス、ホソバノヤマハハコなどの希少植物も確認できた。以下、特徴的な植生が見られた場所を記すと次のようであった。

①石堂神社境内付近～登山道沿い：Alt.1200m付近「調査地No.13」

スギ（254）、ヒノキ（208）、アカマツ（215）、フキ、ヒメムカシヨモギ、ケナシヒメムカシヨモギ、イヌナギナタガヤ、ヤマキツネノボタン、テンニンソウ、シロモジ、ウリハダカエデ、ウリノキ、ヨモギ、ホタルブクロ、ミヤマクマザサ、クマイチゴ、ドクダミ、ススキ、ミヨウガ、クサイ、ウスバヤブマメ、ウツギ、クロヅル、アオミズ、ムカゴイラクサ、ダイコンソウ、シシウド、コバノガマズミ、カナクギノキ、イヌツゲ、タケニグサ、アキノノゲシ、ホドイモ、ヤマカモジグサ、ツリバナ、ヌスビトハギ、シモツケソウ、コゴメウツギ、ノリウツギ、キツリフネ、ゲンノショウコ、アズサ、アサガラ、タンナサワフタギ、ヒメジョオン、サイコクイボタ、タラノキ、オニグルミ、イワガラミ、サルトリイバラ、ネコハギ、ボタンヅル、カノツメソウ、イヌシデ、ミゾシダ、オオバショウマ、クロフネサイシン。／標高1320m付近の旧半田町側にニシノヤマタイミンガサの大群落あり。

②ブナ林：Alt.350m付近「調査地No.19」

高木層：ブナ（優占）、ウリハダカエデ、アズサ、イタヤカエデ、ナナカマド、エゴノキ、ミヤマザクラ、ウラジロモ

ミ、ヤマハンノキ。／亜高木層：ブナ、リョウブ、ナツツバキ、コハウチワカエデ、ウリハダカエデ。／低木層：コバノミツバツツジ、オオカメノキ、シロモジ、ツリバナ、ウリハダカエデ、タンナサワフタギ、カマツカ、ツガ。／草本層：タンナサワフタギ、モリイバラ、テバコモミジガサ、イトスゲ、ヒメホウチャクソウ、シロモジ、コタチツボスミレ、シラキ、ナガバハエドクソウ、テンニンソウ、コゴメウツギ、オヤマボクチ、ヒメキンミズヒキ、ミツバアケビ、マツブサ、イシヅチウスバアザミ、シシガシラ。

③稜線上の植物：Alt.1400m付近～お塔石「調査地No.⑳」

ヒメノガリヤス、リョウブ（食害）、ウラジロモミ（食害）。／稜線上（旧半田・旧一字）：Alt.1419m：ミズナラ（355）、ブナ（324）：オシヤグジデンド、コハウチワカエデ、コミネカエデなど着生。／白滝山山頂近く（標高1500m）ミヤマツチトリモチ 3 個。／白滝山～石堂山稜線：Alt.1540m：ミヤマクマザサ、トゲアザミ、ススキ、タカネコウボウ、シコクフウロ、ホソバノヤマハハコ。／Alt.1620m：ススキ、ニガナ、ミヤマクマザサ、ケアオダモ、リョウブ、シロドウダン、ホソバノヤマハハコ、ハクサンシャジン、ヒカゲノカズラ、コバノミツバツツジ、イヌシデ、コハウチワカエデ、アカカンバ、シシガシラ、ホドイモ、クマシデ、テンニンソウ。／お塔石：イワガサ、ハクサンシャジン、コメススキ、ヒメノガリヤス、マルバイチヤクソウ、ヘビノネゴザ、シククフウロ、マイヅルソウ、コウゾリナ、ナンゴククガイソウ、ヤマヤナギ、イワキンバイ、イワデンド、チャボツメレンゲ、チイサンウシノケグサ、アキノキリンソウ、ナナカマド、コバノミツバツツジ、ヤマボウシ、オオカメノキ、ミヤマクマザサ、シモツケソウ、ウツボグサ、イヌツゲ、クサイ、オオイトヤメイゲツ。

④石堂山山頂：Alt.1636m「調査地No.㉑」

ミヤマクマザサ、マツムシソウ（10株程度）、ホソバシユロソウ、タカネオトギリ、コハウチワカエデ、ヤマヤナギ、ヒメスゲ、ツガ、ヤマボウシ、クサイ、ウツボグサ、イヌシデ、アカカンバ、ウリハダカエデ、ウラジロモミ、イタドリ、ベニドウダン、リョウブ、シナノキ、ホソバノヤマハハコ。

(4)八面山（奥大野～八面山山頂）「調査地No.㉒」

当調査地区では、アカマツの巨樹が「奥大野のアカマツ」として県指定天然記念物に指定されている。その美しく風格ある樹相は訪れる人に巨樹のすばらしさを強く印象づけるものである。アカマツの巨樹に代表されるように周辺には幹の太いアカマツが優占する樹林が多く残っている。そこから上部はスギの植林地や伐採後に成立したイヌシデなどが優占する二次林が続き、低木層や稜線沿いにはアワノミツバツツジ、コバノミツバツツジなどが多く見られ

た。また、登山口周辺をはじめ、標高約1000m以上のブナ帯に出現するナツツバキはリョウブなどとともにニホンジカによる樹幹の剥皮が目立った。

当調査区域で確認した希少植物のうち特記すべきものをあげると、登山口に近い場所でオカイボタを確認した。徳島県には過去に記録されていない植物であり、植栽の可能性がある。それぞれの地点での確認種は次のとおりであった。

①奥大野のアカマツ林：Alt.850m

県指定天然記念物「奥大野のアカマツ」の上部付近にはアカマツ林があり、その組成は次のようであった。

高木層：アカマツ（200, 203, 205, 175, 152）、コナラ（197）、クリ（141+117）、ウリハダカエデ、エゴノキ、アズサ、イヌシデ、トチノキ。／亜高木層：ソヨゴ、イロハカエデ、ウラジロノキ、トチノキ、モミ、ナツツバキ、リョウブ、コシアブラ。／低木層：シラカシ、アラカシ、ソヨゴ、リョウブ、シロモジ、アオハダ、ウツギ、アワノミツバツツジ、イロハカエデ、イヌツゲ、アワブキ、ヒサカキ。／草本層：サルトリイバラ、ミツバツツジ、ソヨゴ、シシガシラ、ナルコユリ。

②アカマツ林：Alt.850m～八面山山頂：Alt.1312.3m

登山道沿いのナツツバキやリョウブなどはニホンジカによる剥皮が目立ち、送電線の鉄塔付近は外来種が出現した。また、稜線沿いにはシデ類が優占する二次林が見られ、山頂に近い八面神社周辺ではブナが優占する樹林が部分的に残されていた。それらの一部を記すと次のようであった。

A シデ類が優占する二次林（山頂まで1kmの表示板付近）

高木層：イヌシデ（優占）、アカシデ、コナラ、スギ、アズサ、ミヤマザクラ、エゴノキ。／亜高木層：ナツツバキ、ウワミズザクラ、ツガ、スギ、ヤマハンノキ。／低木層：シラキ、アワブキ、シロモジ、イヌツゲ、イヌガヤ、タンナサワフタギ、カマツカ、コマユミ。／草本層：タンナサワフタギ、アワノミツバツツジ、イヌツゲ、ツルシキミ、シロモジ、ウツギ、ヤハズアジサイ、エゴノキ、イタヤカエデ、ミヤマハコベ、アサガラ、イトスゲ、タチツボスミレ、イワガラミ、アオハダ、ヤマルリソウ。

B ブナが優占する樹林

ブナ（優占）、リョウブ（剥皮）、ヒメシャラ、ナツツバキ（剥皮）、クロヅル、シロモジ、ヤマウルシ、ヤマグワ、コミネカエデ、アワノミツバツツジ、ワラビ、ソヨゴ、アセビ、コナラ、イタドリ、アズサ、ヤマツツジ、ヤマウルシ、シシガシラ、ミヤマシキミ、サルトリイバラ、ネジキ、シノブ

(岩場), バイカアマチャ (岩場), ツタウルシ (岩場), コゴメウツギ, コミヤマカタバミ。

C 八面神社及び周辺～山頂

境内：スギ (植栽：288, 279, 257, 253), ナギナタガヤ, スカボ, ミツバツチグリ, バライチゴ, シコクアザミ, アオテンナンショウ, クサイ, ホタルブクロ, タケニグサ, トボシガラ, ヤマアジサイ, コナスビ, スギナ, ツメクサ, モリイバラ, ゴヨウマツ, カントウマユミ, ヤマハゼ, ミヤマウグイスカグラ, キハダ, ツリバナ, ブナ (社殿裏：322), オオマルバノテンニンソウ, マムシグサ, ミヤマノキシノブ。／山頂：ヤマツツジ, コバノミツバツツジ, ソヨゴ, スズタケ, ススキ, コナラ, シロモジ, ナツツバキ, ヒノキ, リョウブ, アリノトウグサ, アサマリンドウ, アオハダ, ヒメシヤラ, ヤマシグレ, オオバコ, シラキ, ヒナスゲ, イヌツゲ, ツガ, ツタウルシ。

(5) 夫婦池～丸笹山「調査地No.23②4」

①夫婦池～丸笹山山頂

夫婦池から丸笹山山頂を経て県民の森を巡るコースを調査した。夫婦池の池畔周辺はかつては希少植物のエゾハリイが群生し、林縁にはシイバサトメシダが生育する場所であったが、今回の調査ではニホンジカの食害のためにエゾハリイの姿は全く無く、シイバサトメシダも判定できないほどの小さな個体が生育している状態であった。登山道に沿って続くウラジロモミの群落も樹幹基部や地表に露出した根の部分が剥皮されて被害の大きさは目を覆うばかりであった。その被害は山頂近くにまで及びミヤマクマザサやツルギミツバツツジなどのミツバツツジ類を含む低木類は枯死しているものが目立った。にもかかわらず、希少種のモウセンゴケ, ヤマトキソウ, コモノギク, イブキトラノオ, マイヅルソウなどが生育し、県民の森の樹林ではフガクスズムシ, ショウキラン, トガスグリ, クロカンバ, ハスノハイチゴなどの生育を確認することができた。しかし、県内では当該地に唯一記録の残るアスヒカズラは今回も確認できなかった。また、以前は樹林内に数多く見られたミヤマツチトリモチは今回の調査では全く確認できなかった。その原因はニホンジカの食害により林床の低木や草本類が激減し、宿主となる樹木の減少や林床の荒廃によるものであると考えられる。ここで確認した植物は次のようなものであった。

コバツミツバツツジ, ツルギミツバツツジ, ウラジロモミ, ナナカマド, アカマツ, コハウチワカエデ, サルナシ, リョウブ, ネジキ, オオイタヤメイゲツ, コバノトネリコ, アズ

キナシ, アオハダ, クマシデ, タンナサワフタギ, イヌシデ, アカカンバ, コタチツボスミレ, イワガラミ, シナノキ, ウラジロモミ, アセビ, ヒカゲノカズラ, イブキトラノオ, マンネンスギ, ヒメスゲ, マイヅルソウ, ヒメミヤマスミレ, タカネオトギリ, ウリハダカエデ, タチツボスミレ, スカボシソウ, ミヤマタニタデ, コミネカエデ, ギンリョウソウ, クロヅル, ヤマボウシ, フジイバラ, イグサ, カントウマユミ, ヤマブドウ, ヤマイヌワラビ, ホソバシユロソウ, タカネオトギリ, トゲアザミ, ハクサンシャジン, シコクフウロ, ミツバツチグリ。

②県民の森

山頂からやや下った谷に岩塊の集積した場所があり、コケに覆われた岩場は特異な景観をつくっている。そこにはイタヤカエデ, ハリギリなどが林冠を構成し、その林床にトガスグリ, ショウキランなどの希少植物が生育していた。その組成は次のようであった。

高木層：イタヤカエデ, ウラジロモミ, ハリギリ, コハウチワカエデ, オオイタヤメイゲツ, ケアオダモ, アカカンバ。／亜高木層：アサノハカエデ, リョウブ, ケアオダモ, ツルアジサイ, ナナカマド, ヒコサンヒメシヤラ, コミネカエデ。／低木層：オオカメノキ, イタヤカエデ, ヒメシヤラ, ナナカマド, サイコクイボタ, コノリウツギ, カジカエデ, フガクスズムシ, オシャグジデング。／草本層：シラネワラビ, イトスゲ, ワチガイソウ, ジュウモンジシダ, ミヤマモミジイチゴ, ミヤマハコベ, オオバメギ, アオベンケイソウ, コミヤマカタバミ, トガスグリ, テンニンソウ, タチネコノメソウ, イシヅチテンナンショウ, ナガバイラクサ, ショウキラン。

(6) 塔の丸「調査地No.25」

塔の丸山頂部に向かって旧東祖谷山村との境の稜線を登山道が通じている。登山口周辺部はウラジロモミの樹林が見られ、標高が高くなるにつれてミズナラ, コハウチワカエデ, アカカンバなどの生育する樹林に移行し、その樹林帯を抜けると展望が開けてミヤマクマザサの草原となる。そのササ原に結晶片岩の露頭が点在している。大きな岩は崖や岩棚のある岩場となり、小さなものはササ原からわずかに露頭がのぞく程度のもので多様である。それらの大小の岩盤上にチャボツメレンゲが多数生育していた。その個体数は多く、本調査区を特色づける植物となっている。しかし、希少種であるため、登山道沿いのものは採取されたり、日照りと乾燥のために枯死したりして減少傾向にある。

塔の丸から剣山スキー場にかけては、ニホンジカ

の食害が顕著な地域である。登山口周辺はウラジロモミが優占し、ツガ、ミズナラなどが生育する樹林が見られるが、シカの食害が激しく、ウラジロモミの根元が多く剥皮されていた。また、山頂部に近い一字村側にはイシヅチミズキの群落が見られるが、樹幹がことごとく剥皮被害を受けて痛々しく感じられた。また、その周辺部のミヤマクマザサや低木類が被害により枯死し、その面積が広範囲に拡大しつつあることも誠に残念なことである。

①登山道付近の道路沿いのミズナラ林

高木層：ミズナラ（優占）、ブナ、ミズキ、アカカンバ、イタヤカエデ、サルナシ、オオイタヤメイゲツ、サワグルミ、コハウチワカエデ、ウラジロモミ、トチノキ、アオハダ。／亜高木層：オオイタヤメイゲツ、アオハダ、ツルアジサイ、ウリハダカエデ、ナナカマド。／低木層：リョウブ、コミネカエデ、ツガ、アサノハカエデ、オオイタヤメイゲツ、タンナサワフタギ、オオミヤマガマズミ、ウラジロモミ、ナナカマド、ブナ、ミズナラ、フウリンウメモドキ、サイコクイボタ、ヒコサンヒメシヤラ、ムシカリ、アサガラ。／草本層：ツルシキミ、ワチガイソウ、オオナルコユリ、スズタケ、フジシダ、シラネウラボ、ミヤマタニソバ、ミヤマハコベ、タニギキョウ、コミヤマカタバミ、ツルアジサイ、ニワトコ、ツタ、テンニンソウ、アサノハカエデ。

②塔の丸のウラジロモミが優占する樹林：

Alt.1480m付近

高木層：ウラジロモミ（優占：剥皮）、コミネカエデ、アカカンバ、アズサ、コバノトネリコ、コハウチワカエデ。／亜高木層：ナナカマド、コバノトネリコ、ツタウルシ、ツルアジサイ、ツガ、コハウチワカエデ、ウリハダカエデ。／低木層：コバノトネリコ、ノリウツギ、リョウブ、コハウチワカエデ、シナノキ、ミヤマノキシノブ（ウラジロモミに着生）。／草本層：ミヤマクマザサ、ミヤマタニタデ、ヘビノネゴザ、ミヤマワラビ、ツタウルシ、コバノトネリコ、アズサ、ヤマイヌワラビ、タンナサワフタギ、ツルリンドウ。

③岩場：Alt.1540m付近

樹林帯を過ぎて、ササ原の登山道を歩むと一字側の地表に大きく突出した基盤岩の露頭が出現する。岩上にはコメツツジが生育し、イワキンバイ、コバノミツバツツジ、クサノオウバノギクなどが生育していた。その岩場に続く旧一字側には低木の樹林も残され、林内のコケに被われた岩場にコミヤマカタバミが多く見られた。

岩場やその周辺では次のような植物を確認した。

コメツツジ、ススキ、コノリウツギ、リョウブ、コバノミツバツツジ、ミヤマノキシノブ、コハウチワカエデ、クサノ

オウバノギク、イワキンバイ、ヒメミヤマスマミレ、イブキトラノオ、タカネオトギリ、ヒメスゲ、リンドウ、ハリギリ、ナナカマド、ウラジロモミ、ブナ、ミズナラ、ヘビノネゴザ、フクロシダ、テンニンソウ、フジイバラ、アキノキリンソウ、コミヤマカタバミ、ヤマブドウ、ナガエコナスビ、ヤマヤナギ、トゲアザミ。

④草原と岩場：Alt.1510m付近

ササ原が続いて、登山道にはクサイ、オオバコなど路傍の植物が見られ、リンドウ、ツリガネニンジン、アキノキリンソウ、イシヅチコウボウなどが出現する。

岩盤が露出している岩場：Alt.1560m付近

シコクフウロ、トゲアザミ、タチツボスミレ、テンニンソウ、ミヤマクマザサ（食害で枯死）、タカネオトギリ、ススキ、イブキトラノオ、フジイバラ、イトスゲ、ヤマカモジグサ、センブリ、イワキンバイ、イタドリ、リンドウ、アセビ、ナナカマド、ミズナラ、ブナ、ヤマヤナギ、ウラジロモミ、ホソバツヤマハハコ、コバノミツバツツジ、アオハダ、リョウブ、ツリガネニンジン、コハウチワカエデ、ネジキ、シナノキ、クロヅル、ウメバチソウ、タンナサワフタギ、ミヤマザクラ。（1640m付近が村境界部）

3) 特筆すべき植物

今回の調査で確認した希少植物及び過去に記録されている希少植物をあげると次のようなものがある。

(1) 特に注目すべき植物

オオユリワサビ *Eutrema okinosimense* Taken. (図5)：青森、福井、長野、福島、秋田、岩手、などの内陸部と北陸から山陰、九州の日本海側に分布。四国では徳島県のみ、旧一字村で初記録(木下2002)、その後数箇所に生育。



図5 オオユリワサビ

ギンロバイ (ハクロバイ) *Potentilla fruticosa* L. var. *leucantha* Makino: 高知県と徳島県に生育。徳島県では剣山、石立山に生育。当地では初記録、第3産地。

ミヤマカラマツ *Thalictrum tuberiferum* Maxim.: 徳島県植物誌 (阿部1990) 未記載種、四国では高知県と徳島県に生育。徳島県では当地で初記録 (2005 木下: 未発表), 旧木沢村でも確認 (未発表)。

アズマイチゲ *Anemone hepatica* Linn.: 「徳島県の絶滅のおそれのある野生生物2210」(以下、徳島県版RDB) では絶滅とされていたが、桑平の果樹園の二次的環境で再確認された (谷川2007)。その後の調査で、周辺部数箇所にも生育を確認。四国では徳島県のみにも生育。

コケミズ *Pilea peltoides* (Gaudich.) Hook. & Am.: 徳島県植物誌 (阿部1990) 未記載種。これまで那賀町で3箇所 (未発表), 当地は第4産地。

ミヤマベニシダ *Dryopteris monticola* (Makino) C. Chr.: 四国では愛媛県 (数箇所), 高知県 (1箇所), 徳島県 (数箇所) に生育。当地では初記録。

クロタキカズラ *Hosiea japonica* Makino: 四国では高知県, 徳島県に生育。

シイバサトメシダ *Athyrium neglectum* Seriz. subsp. *australe* Seriz.: 四国では高知県 (1箇所), 愛媛県, 徳島県に生育。

ユキワリソウ *Primula modesta* Bisset et S. Moore: 四国では高知県, 愛媛県, 徳島県に生育。当地では初記録。

コダイコンソウ *Geum japonicum* Thunb. f. *iyoonum* (Koiz.) H. Ikeda: 徳島県植物誌 (阿部1990) 未記載種。三好市に生育 (未発表)。当地では初記録。

ダイモンジソウ *Saxifraga fortunei* Hook. f. var. *alpina* (Matsum. et Nakai) Nakai: 剣山行場, 那賀町ホラガイ滝・石立山, 神山町などに生育または記録。当地では初記録。

セトエゴマ *Perilla setoyensis* G. Honda: 徳島県植物誌 (阿部1990) 未記載種。阿波市成町, 美馬市穴吹町, 旧一宇村などで生育を確認。

トガスグリ *Ribes Sachalinense* (Fr. Schm.)

Nakai: 本県では, 剣山, 矢筈山, 落合峠などに生育。当地では初記録。

シコクノガリヤス *Calamagrostis tashiroi* Ohwi subsp. *sikokiana* (Ohwi) Tateoka: 本県では, 剣山, 三好市山嶺・矢筈山, 那賀町等に生育。当地では初確認。

ヒトツバエゾスミレ *Viola eizanensis* (Makino) var. *simplicifolia* (Makino) Makino: 本県では, 那賀町, 三好市などに記録。当地では初記録。

ケツルマサキ *Euonymus fortunei* (Turcz.) Hand. - Mazz. var. *villosus* Hara: 本県では, 上板町, 旧美郷村に記録。当地では初記録。

トクシマサイハイラン (仮称) *Cremastra* sp.: 徳島県ではモイワラン (*C. aphylla* T. Yukawa) と呼ばれているが, モイワランとは花期に小さい葉が出ることや唇弁のカルスの形, 遺伝子等に違いがあるそうである (遊川知久氏 私信)。四国では高知県, 徳島県に生育。県内では剣山, 那賀町等で確認。当地でも確認された。

*未確認種

今回の調査で確認できなかった重要種

クルマユリ *Lilium medeoloides* A. Gray: 今回は以前の生育場所で確認できなかった。ニホンジカの食害や人による採取で消滅の可能性あり。

アスヒカズラ *Lycopodium complanatum* L.: 過去に記録があるが, 今回も確認できなかった。

その他, 徳島県版RDBに掲載されている植物で確認したものは次のとおりである。(今回確認出来なかったが過去に記録があるものは (記録) と記述した。)

(2) 徳島県版RDBに掲載されている植物

上記以外で, 徳島県版RDBに記載されている植物をあげると次のものがある (環境庁版RDB記載種は全て徳島県版RDBに含まれているので省略)。

I類 (絶滅の危機に瀕している種)

スギラン (記録), アカハナワラビ (明谷), ホテイシダ (記録), イワオモダカ (大宗他), アイツヤナシイノデ (津志嶽), ホウビシダ (土釜), コタニワタリ (記録), クジャクシダ (桑平), オヒョウ (記録), ケグワ (土釜), コゴメカラマツ (記録), ベニバナヤマシャクヤク (須貝瀬), モウセンゴケ

(丸笹山), ヤマキケマン (白井), イヌナズナ (大宗他), チャボツメレンゲ (塔の丸), ヤシヤビシヤク (丸笹山), コフウロ (黒笠山), メグスリノキ (黒笠山他), クロカンバ (県民の森), カノツメソウ (石堂山), シャクジョウソウ (小島峠), ウスギヨウラク (夫婦池), バイカツツジ (黒笠山), ウスバヒョウタンボク (大宗), イヌノフグリ (大宗), マツムシソウ (石堂山), コモノギク (丸笹山), クシバタンポポ (白井), クサノオオバノギク (塔の丸), アワコバイモ (明谷他), タマガワホトトギス (黒笠山他), タシロノガリヤス (シコクノガリヤス) (黒笠山他), チイサンウシノケグサ (塔の丸), ヒロハノハネガヤ (黒笠山), ツルギテンナンショウ (記録), イシヅチテンナンショウ (桑平), シコクヒロハテンナンショウ (黒笠山), オオナキリスゲ (土釜), ヒナラン (大横), ナツエビネ (大宗), イチヨウラン (記録), カキラン (記録), ノビネチドリ (津志嶽), クマガイソウ (明谷他), ムヨウラン (河内), ギボウシラン (記録), フガクスズムシソウ (丸笹山), ホザキイチヨウラン (記録), ツレサギソウ (明谷他), オオヤマサギソウ (塔の丸), カヤラン (河内他), ショウキラン (丸笹山),

Ⅱ類 (絶滅の危機が増大している種)

ハコネシケチシダ (津志嶽), イヌブナ (黒笠山), ミヤマツチトリモチ (黒笠山他), クリンユキフデ (記録), オオヤマレンゲ (矢筈山), フクジュソウ (桑平), ユキワリイチゲ (桑平), オオバメギ (丸笹山), クロフネサイシン (小島峠他), トモエソウ (小島峠他), ミツバベンケイソウ (桑平), トサノチャルメルソウ (明谷他), ヤブサンザシ (大宗), イワキンバイ (黒笠山他), フジキ (伊良原他), フッキソウ (石堂山), シコクスミレ (黒笠山), コメツツジ (黒笠山他), ツマトリソウ (丸笹山), ハクウンボク (白井), サワリソウ (津志嶽), オオキヌタソウ (黒笠山), ラショウモンカズラ (大横), ヤマタイミンガサ (ニシノヤマタイミンガサを含む) (石堂山: 旧半田町側には大群落), ヒメアザミ (記録), イズハハコ (記録), ソクシンラン (記録), イシヅチコウボウ (石堂山・白滝山途中), イワタケソウ (黒笠山), エビネ (明谷他), ヒメウラジロ (川又他), ヤマシヤクヤク (丸笹山他), ヒカゲツ

ツジ (記録), ツルギミツバツツジ (黒笠山他), ユキモチソウ (津志嶽他), エゾハリイ (夫婦池消滅), ヒゲネワチガイソウ (記録), テリハキンバイ (黒笠山)。

情報不足 (評価するだけの情報が不足している種)

ヒロハノアマナ (要検討), ムカゴソウ (記録), コフタバラン (津志嶽), マイサギソウ (記録), ヤマトキシソウ (丸笹山)。

(3) その他

ハスノハイチゴ (丸笹山), タカチホガラシ (黒笠山他)。

5. おわりに

今回の調査により, 徳島県における未記載植物やこの地域から記録されていなかった多くの植物を確認することができた。しかし, それらは旧一宇村全域から見れば, ごく限られたものを見出したに過ぎない。調査は広範囲で, 険しい山岳地帯を限られた期間内での調査であったため, 未踏査地域も少なからず残っている。季節が違えば同じ場所でも見られる植物が多少異なることを考えれば, 今後の補充調査は是非必要である。また, 当地域においても貴重な樹林や希少植物などのニホンジカによる被害は深刻である。特に剣山に隣接する地域は被害が一層拡大する傾向にあり, 早急な対策が必要である。

末筆ながら, 種の同定等でお世話になった国立科学博物館の門田裕一氏, 遊川知久氏に厚くお礼を申し上げます。また, 以前に希少種の生育情報をいただいた川村市郎氏, 今回お世話になった当局並びに関係者の皆様に対しても厚くお礼を申し上げます。

文献

- 阿部近一 (1990): 徳島県植物誌 教育出版センター。
 一宇村誌 (1920): 美馬郡一宇村 一新印刷所。
 一宇村史 (1972): 一宇村役場 原田印刷出版株式会社。
 岩崎正夫 (1990): 徳島県地学図鑑 徳島新聞社。
 岩槻邦男 (1992): 日本の野生植物シダ編 平凡社。
 岡田義生 (良人) (1994): 阿波の歴史小説第15集. (96-117頁) 徳島出版株式会社。
 環境庁 (2000): 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—植物 I (維管束植物)。
 木下覚ほか (2006): 三好市「旧東祖谷山村」の植物 (25-37頁) 阿波学会紀要第53号三好市総合学術調査報告 阿波学会。

木下覺 (2009) : 徳島県におけるオオユリワサビの分布 分類
第9巻1号 (61-63頁) 日本植物分類学会.
高知県植物誌 (2009) : 高知県 弘文印刷株式会社.
清水建美 (2003) : 日本の帰化植物 平凡社.
徳島県 (2001) : 徳島県の絶滅のおそれのある野生生物.

徳島地方气象台・日本気象協会 (1991) : 徳島の気象100年 徳
島出版株式会社.
中池敏之 (1982) : 新日本植物誌シダ篇 至文堂.
長田武正 (1994) : 日本イネ科植物図譜 平凡社.
牧野富太郎 (1989) : 増補改訂 新日本植物図鑑. 北隆館.

Plants of Ichiu area in Tsurugi Cho, eastern Shikoku.

KINOSHITA Satoru, TANIGAWA Mitsuaki, KATAYAMA Yasuo, MATSUE Etsuko, UEGITA Chizuko, OGAWA Makoto,
IBARAGI Yasushi, NARITA Aiji, KOMATSU Kenichi, HARADA Etsuko,

Proceedings of Awagakkai, No. 57 (2011), pp. 33-48.